

大型ガザミ種苗の10万尾放流に成功！

～築堤式大型池を用いたガザミの中間育成～

漁業者の要望から中間育成を開始

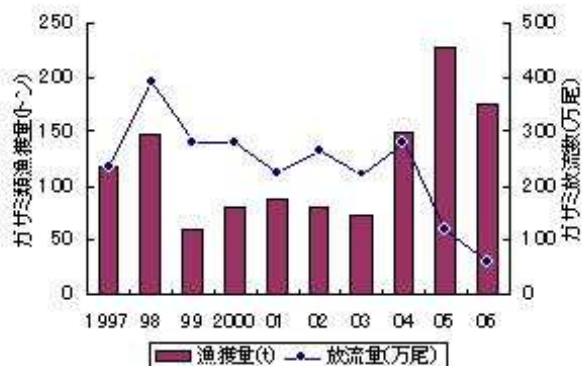


図1 ガザミの漁獲量と放流量

香川の漁獲量は100トン前後で推移し、漁獲量増加のため、毎年120万尾程度のガザミ種苗を放流しています(図1)。ただ、ガザミは稚ガニまで成長すると共食いが激しくなるため、放流しているガザミは稚ガニになったばかりの甲幅5mmサイズのものが大部分です。漁業者からは「魚に捕食される心配のない500円玉程度(甲幅30mm)の大きなガザミを放流してくれたら、もっと放流効果が出るだろう。」といった要望がありました。

目標は30mmサイズ5万尾

漁業者からの強い要望とこれまでのキャンバス水槽を用いたガザミ中間育成の知見の蓄積から、さぬき市小田にある築堤式大規模中間育成池

(5,000m²)を用いれば、大型ガザミを大量に育成

できると考え、中間育成を実施することになりました。目標は、「甲幅5mmのガザミ50万尾を、1ヵ月間で30mmのガザミ5万尾に育成・放流」です。

目標を大きく上回る成果

6月30日に(独)水産総合研究センター玉野栽培漁業センターから甲幅5mmのガザミ種苗50万尾を小田中間育成場の築堤式大規模中間育成池に収容し、7月25日まで飼育しました。なお、飼育管理は(財)香川県水産振興基金が行いました。餌料には、アルテミアとクルマエビ用配合飼料を用いました。ガザミの成長や分布状況を見るために、ほぼ毎日、潜水観察を行いました。中間育成の結果は、平均甲幅37mm(平均体重3.1g;図2)のガザミ約10万尾を取り上げ、生残率は19.7%でした(表1)。県外でも中間育成が行われていますが、このサイズのガザミの大量飼育に成功したのは全国初でした。

表1 中間育成の結果

	尾数(千尾)	平均甲幅(mm)	齢期	生残率(%)
収容	500	4.9	C1	19.7
取り上げ	98.4	37.1	C6-7	

ガザミの漁獲量向上に向けて

育成された大型ガザミは、庵治漁協、志度漁協、鴨庄漁協の各地先および小田中間育成場近くの砂浜へ放流されました(図3)。今後は、放流尾数の増加はもちろんですが、飼育コストの削減や標識の開発などについて検討していきたいと考えています。



図2 育成前(右)と育成後(左)のガザミ



図3 放流される大型ガザミ